

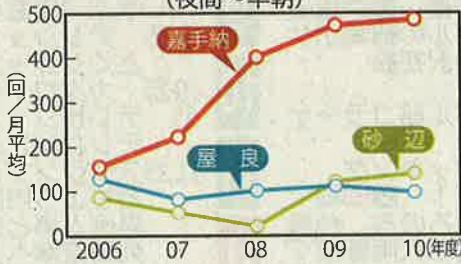
# 嘉手納 夜間の騒音最多

## 10年度県測定

# 月484回エンジン調整増か

県環境生活部は1日、米軍嘉手納基地と普天間飛行場、那覇空港周辺の2010年度航空機騒音測定結果を発表した。騒音の度合いを示すうるささ指数(WECPNLW値)は28カ所の測定局のうち12局で環境基準を超えた。嘉手納町嘉手納では夜間一早朝(午後10時〜午前7時)の騒音発生回数が月平均484・7回となり、測定を開始した1995年度以来、過去最多を記録した。

嘉手納飛行場周辺の騒音発生状況 (夜間～早朝)



うるささ指数が最も高かったのは、嘉手納基地周辺の北谷町砂辺、嘉手納町屋良、普天間飛行場周辺の宜野湾市上天謝名でいずれも86。

夜間一早朝の騒音発生回数(月平均)が最も多かった嘉手納の数値は4年連続の増加。県

は、航空機のエンジン調整回数が増加したためとみている。最も大きな騒音を記録したのは上天謝名で、1233・6回(10月)。次いで砂辺の115・2回(5月)、宜野湾市野嵩の122・7回(11月)だった。

那覇空港周辺では、豊見城市与根のうるささ指数が75となり、環境基準を上回った。また、同空港周辺の4測定局のうち3測定局の騒音最大値は、自衛隊機による記録だった。

県は「日米合同委員会で両飛行場(嘉手納基地、普天間飛行場)の夜間騒音規制措置を合意した96年以降も騒音は改善しておらず、努力がみえない」として7日、米軍や沖縄防衛局を訪ね、騒音軽減を要請する。

## 住民悲痛「米国人に聞いてほしい」

【中部】夜間・早朝の騒音発生回数が過去最多を記録した嘉手納町屋良の島袋敏雄東区自治会長は「毎年のように『過去最多』を更新し、負担軽減を求める地元を無視した運用がされている」と米軍を批判。「深夜騒音の苦しみは住んでみないと理解しにくいだろうが、一地域の問題にせず、声を大にして改善を求めたい」と力を込めた。

北谷町砂辺に住む松田トヨさん(65)は「米国人は人権感覚に優れた国。この地域に住む兵隊だけじゃなく、生活権に敏感で、善良な米国人にこの音を聞いてほしい」と訴えた。

昨年秋に退職後は自宅で終日を過ごす。「今週は特にひどい。何か起きたのかと思うくらい。胸がはりさけそう」とため息をついた。

昨年10月、調査最大の1233・6回を測定した宜野湾市上天謝名自治会の大城ちえ子会長は「政府要人は嘉数高台だけではなく、上天謝名で被害の現状を直視してほしい」と要求した。

最近、騒音で屋敷を邪魔された孫に「おばあちゃん、もっと抗議して」と怒られた住民がいたという。同会長は「いつになれば改善されるのか。兆しすら見えない」とつぶやいた。